

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

September 30, 2022, No.19

JACET 関東支部ニューズレター第 19 号（WEB 版）刊行に寄せて

支部長 山口高領（秀明大学）

JACET 関東支部の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。第 61 回 JACET 国際大会も盛会に終わり、また、関東支部の先生方からは多くの方に司会を行っていただきました。

現在の体制として、副支部長には、Paul McBride 先生（玉川大学）、支部事務局は、長田恵理先生（國學院大學）、新井巧磨先生（早稲田大学）、中山夏恵先生（文教大学）という 3 人体制です。支部幹事は引き続き、鈴木彩子先生（玉川大学）をお願いしていますが、22 年度 4 月からは、青木理香先生（東洋大学）にもお引き受けいただいております。

JACET 関東支部では研究企画委員を募集しております。JACET の運営は 2 年単位で行われており、現在は 2023 年度・2024 年度の研究企画委員を検討しているところです。支部での仕事を分担し、和やかな雰囲気ですまざまな企画を実行していきたいと常に考えております。研究企画委員にご興味がある方は、JACET 関東支部事務局のメールアドレス jacet.kanto.office@gmail.com までお尋ねください。支部運営会議を経て、新たに委員をお願いするという流れであります。

関東支部の主な活動は、関東支部大会の開催、JACET-Kanto Journal の発行、関東支部講演会の開催、ニューズレターの発行です。研究企画委員は上記の委員会のどれかに参加し、運営を行っております。今期の活動の詳細は、本文を御覧ください。

今後とも、ますますのお力添えを頂きますと幸いです。

目次	
・ 巻頭言	
JACET 関東支部長 山口高領	-1-
・ 第 15 回関東支部大会報告	
支部大会運営委員長 山口高領	-2-
・ 第 1 回支部総会報告	
支部事務局幹事 長田恵理	-5-
・ 支部講演会委員会報告	
支部講演会委員長 青木理香	-8-
・ JACET 関東支部講演会（第 1 回）報告	
支部講演会委員 青木理香	-8-
・ 支部紀要編集委員会からのお知らせ	
支部紀要編集委員長 鈴木彩子	-9-
・ 事務局だより	
支部事務局幹事 長田恵理	-9-

第 15 回 関東支部大会報告

支部大会運営委員長

山口高領 (秀明大学)

第 15 回 (2022 年度) JACET 関東支部大会
<http://www.jacet-kanto.org/2022convention/index.htm>

1 が、The Exploration of New Forms of Study Abroad を大会テーマとして行われました。研究発表 4 件、実践報告 2 件、SIG 発表 2 件となりました。SIG 発表では、関東支部 バイリンガリズム研究会の紹介が行われ、関西支部の教材開発研究会発表「英語教育における授業複線化と即時フィードバックの試み」も行われました。賛助会員からは、朝日出版社様、金星堂様、三修社様の 3 社からライトニング・トークを頂きました。新型コロナウイルス感染症について安心ができない時期でありましたが、重複アドレスを除いて 100 名ほどの会員のみなさまにご参加頂きました。

昨年度のオンライン大会同様、関東支部以外の先生方にも参加頂いたことに、感謝申し上げます。

今回の支部大会の大きな特徴は、基調講演とワークショップを行ったことです。Eric Hagley 先生 (法政大学) をオンラインでお招きできました。海外からのオンライン講演ならびにワークショップでありましたが、接続などにも大きな問題はなく、ワークショップでは Zoom 上ではありますが、活発な意見交換が行われました。

また、近年初めての企画として、佐竹由帆先生 (青山学院大学) にご尽力いただき、青山学院大学の教室をお借りし、教室にて支部大会を視聴できることを可能にしました。来場された方は少数でしたが、JACET 会員のみなさまの多様な希望を少しでも実現できたと考えています。

さらに、もう 1 つの初めての企画として、発表者の了承がとれている発表については、JACET 会員に限って発表録画の視聴を可能にしました。録画視聴に対してご不便をおかけしましたが、反省を踏まえて来年度はより利便性を高めていく予

定です。

支部大会参加者にアンケート (無記名かつメールアドレス収集なし) を行っております。毎回頂いた意見を踏まえて、支部大会を行っておりますが、今回の Newsletter でご紹介します。

【支部大会のテーマ】

以下のテーマを今後の大会案として頂きました。他にも案がありましたらお寄せいただけますと助かります。

- AI 技術を利用した言語教育支援
- 機械翻訳の有効活用 (利用を想定してどう活動を組み立てるか)
- 授業で活用できる試みや技術などのワークショップ
- ICT についての具体的実践報告やワークショップ
- ICT, CMC, DDL などコンピュータを使った言語活動や学習材料の活用
- 仮想空間でのアバターを使った英語教育
- 対面とオンラインの両方の良さを活かした授業展開の工夫
- コロナ禍で促進されたオンライン授業の効能と学生への悪影響など
- 日本人の、日本人による、日本人のための英語教育とは
- 小中高大を見通しての英語教育
- CALL の今後の展開, 小中高大の連携, 流暢さ (fluency) を伸ばす指導法と評価法
- 大学におけるビジネス英語教材に求められるものの
- 自律した学習者育成のための取り組み
- 「教える」でなくて「学ぶ」という観点からのもの
- 質的分析、第二言語ライティング
- 様々な研究手法など
- 日本人学生のコミュニケーションスタイル
- 英語力そのものを問う種類のもの
- ホットなトピック

- ・現在の研究に至る過程についてどのような経緯があったかなどのような、研究の背景・文脈等の特集等
- ・日本の大学英語教育のカリキュラム、到達目標、教授内容、アジア各国の英語教育のレベルなどとの比較、それらの問題点を総ざらいしてみたらどうですか。JACETがこれから向かう方向性がでてくるでしょう。

【今回の支部大会について良かった点】

多かった意見を掲載します。

- ・様々なICTを用いた授業取り組みを聞いた。
- ・様々な意見交換ができた点。
- ・オンライン参加できたこと。
- ・Zoomだけでなく、実際の会場を準備して下さった点。
- ・スケジュール上、参加できない発表をあとからオンデマンドで閲覧できること。

【今後の支部大会に向けての改善点】

以下に頂いた意見を掲載します。可能なものは改善してまいります。

- ・改善点ではございませんが、オンラインで視聴できましたことは大変有難い方法でした。
- ・今後もオンライン開催は続けていただけると嬉しいです。
- ・アフターコロナも対面一辺倒に戻るのではなく、オンライン（ハイブリッド）開催を継続していただけたら嬉しゅうございます。他支部からもぜひ参加したく存じます。関東支部の雰囲気がとても好きです。
- ・今後もハイブリッド開催にするとある程度の参加者が確保できると思った。
- ・会場に人が少なく、交流を望んで遠くから足をお運びいただいた方に申し訳ないと思えました。ハイブリッドでやるなら、発表者・講演者は原則来場とする方がよいのではないのでしょうか。
- ・インパーソンの発表を復活してほしい。

- ・コロナウイルス感染の状況にもよるが、対面方式での開催が望ましいと思う。

- ・改善点ではなく、今後も継続をお願いしたい点として、Zoomだけでなく、実際の会場を設置して頂けると幸いです。他の研究者の方々が周りにいる環境での開催は、目には見えない部分ですが、互いの motivation にも繋がる気が致します。

- ・発表者への連絡先が要項などで分かるようにしてほしい。

・【ワークショップ】

参加者全員がアクティブにワーク出来て、そのグループディスカッションを通じて何か気づき、次への活力になるようなワークショップを期待しています。

・【研究発表】

最近 Zoom になって、業者によるライトニング・トークが一定の間（10 分数回と 30 分）をその時間を独占する（全員が見る）という形が出現（それはそれで意義深い点もありますが）しましたが、その影響も多少あると思いますが、研究発表自体までもが、自作の教材・テキスト等の紹介になりやすい傾向があるように感じています。「これも時代の変遷・・・」と考えて、受け入れるべきなのか・・・皆さんといつか議論する機会があるとよいです。どちら（従来型の研究志向中心にするか、それとも、近年の紹介型も包含していくのか）になるにしても、それぞれの意義づけが、より深まるかと思われま

- ・IVEProject や関西支部教材開発研究会、研究発表など面白い企画があったのですが、事前に情報宣伝できると良いかもしれません。

- ・このような企画の周知連絡の頻度につきまして、会員向けのメールで十分かと思いますが、いつ・どこで・何をする・関連事項等リマインドの回数をもう少し増やしていただければと大変助かります。

- ・参加申し込みの期間と方法がわかりづらかったです。大会テーマや日程は関東支部のホームページのトップに載っていますが、いつからどうやって registration するのか書かれていません。そもそも registration は不要？と誤ってしまいました。
- ・時間のマネジメント
- ・会場校からの配信における音響対策、特にハウリングについて。
- ・より多くの発表数
- ・参加人数を増やすため、何らかの策が必要かもしれません。例えば、基調講演は時宜を得たトピックで企画するとして、その他に新進気鋭の研究者に講演をお願いして最新の研究動向を解説して頂くのはいかがでしょうか。
- ・「海外留学」特集とのことだったので発表を申し込みましたが、必ずしも留学に特化した研究発表ばかりでなく拍子抜けした。
- ・発表録画をどんどん共有していただけると助かります。

以下に、実践報告と研究発表と賛助会員発表について、司会をしてくださった先生からのご報告を掲載します。

実践報告 (9:00-9:30) (Breakout 使用) 「新たな留学形態を模索して—オンデマンド留学の可能性—」 関戸冬彦 (白鷗大学)・水沼早希 (白鷗大学)

新型コロナウイルスの影響により従来の意味での留学が難しくなった中で、渡航ができない学生に英語を駆使した対話や議論の機会を与えるべくスタートしたオンデマンド留学プログラムに関する報告がなされた。参加者はプログラムを通して英語に対する自信をつけただけでなく、参加後も運営に携わることでプログラムの発展に貢献しており、オンデマンド留学のさらなる可能性が示唆された。(青木理香・東洋大学)

研究発表 (9:40-10:10) (Room1) 「L2 Brain Connectome Re-structuring by Studying Abroad」 Hideyuki Taura (立命館大学)

Professor Taura examined effects of studying abroad from a neurolinguistic perspective, focusing on structural connectivity within the brain and finding evidence of increased efficiency in L2 processing post-study abroad. Discussion following the presentation revealed that brain activation study techniques could be used to examine L2 processing in online class contexts. (Paul McBride・玉川大学)

研究発表 (9:40-10:10) (Room2) 「英語科教職課程履修生による模擬授業に対する省察—深い省察を促す取り組みへ向けて—」 大崎さつき (創価大学)

3回のピア・ティーチングと1回の模擬授業を経験した英語科教育法履修者18名が模擬授業後に書いたJ-POSTLの自己評価記述文を、ALACTモデル(Korthagen, 1985)を用いて分析した。その結果、4名の履修者が具体的な問題点を描写することができ、振り返りが促進された。そのほかの履修者は、行為そのものの振り返りか安易な解決策を求めることのみにとどまった。

(馬場千秋・帝京科学大学)

研究発表 (10:20-10:50) (Room1) 「ディベートを日本の大学教育に取り入れる示唆—オックスフォード・ユニオンの事例研究—」 中谷安男 (法政大学)

世界的なリーダーを目指す学生はOxford Union (OC)という学生ディベート団体に在籍することが多い。本発表では、そのOCの刊行物とOC在籍学生へインタビューをもとに、英語発話能力向上の為の段階的な練習を含むディベート学習が示された。具体的には、多量な読書を通し、豊富な知識の獲得を促す、実践機会を多く設ける、そして個人へのフィードバック機会を十分に与え

る事等が挙げられ、ディベートの練習方法の有効性が示唆された。(辻りこ・和洋女子大学)

研究発表 (10:20-10:50) (Room2) 「学生から見た少人数・習熟度別クラス編成の評価—アンケートとインタビューに基づいて—」 志村美加 (学習院大学)・中竹真依子 (学習院大学)・小杉弥生 (学習院大学)

英語プログラムの改編により設立された少人数・習熟度別クラスについて、学生はどのように捉え、評価したかを報告したものである。受講学生を対象としたアンケートとインタビューの結果、安心して学べる環境の中で、コミュニケーションが取れるという利点が明らかになった一方で、学生の新しいスキルを学びたいという希望や、英語力をアップさせたいという意欲に、大学がどう応えていくかが今後の課題と言える。

(小屋多恵子・法政大学)

実践報告 (11:00-11:30) (Room1) 「自動翻訳時代に課す英訳問題の取り組みについての実践報告」 大味潤 (東京経済大学・非常勤講師)

自動翻訳は、文脈が読めない、代名詞が訳せない、不自然な日本語を修正できないという弱点がある。取り組みとして、英訳の課題に比較文化の内容を用い、「前後関係を含め」「名詞・代名詞を具体的に訳し」「自然な日本語に言い換えること」を解答要件に含めた。これら課題について優秀な学生の訳と自動翻訳を比較した。成果として、学習動機向上、日英双方の言語センス、とりわけ日本語のセンス向上も示唆された。

(立命館大学・渡辺彰子)

賛助会員発表 (11:00-11:30) (Room2) 「対話で伸ばす英語ディスカッション教科書の紹介」 飯野厚 (法政大学)・Brian Wistner (法政大学)

発表者らが開発し本年度刊行予定の教科書の紹介があった。高等学校学習指導要領改定に鑑み、

大学生の知的欲求に応えるような発信型英語学習教材を開発する必要があることから、インプット、インタラクション・アウトプットの段階を踏んだ無理のない発信を可能とする教科書を開発したとの主旨が示された。話す内容を考えながら英語を「使ってみて覚える」運用先行型の具体的な活動が、実物教科書を開示しながら説明された。(河内山晶子・明星大学)

第1回支部総会報告

支部事務局幹事

長田恵理 (國學院大學)

2022年7月9日(土)にオンラインで、2022年度第1回支部総会が開催されました。支部総会では、2021年度事業報告・会計報告、2022年度事業計画についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。なお、支部総会以降に日時等変更が生じたものについては、混乱を避けるため、適宜修正しております。会計報告は省略しました。

■2021年度事業報告■

I. 大会、セミナー等の開催 (1号事業)

(1) 支部大会の開催

名称：2021年度関東支部大会

日程：2021年7月11日(日)

場所：オンライン

大会テーマ：DX時代における大学英語教育—ハイブリッド・ハイフレックス・対面型学習—

研究発表2件、実践報告4件、ワークショップ1件、シンポジウム1件、SIG発表3件、

ライトニング・トーク3件

参加申込み登録者数：約100名

(2) 支部講演会の開催

名称：JACET 関東支部講演会

場所：オンライン

規模：毎回約 60 名

第 1 回

日時：2021 年 6 月 12 日（土）16:00-17:20

講師：船田なつの先生（東京大学 大学総合教育
研究センター特任講師）

場所：オンライン（Zoom）

日本語題目：英語学習者の言語態度に関する質問
紙の開発

英語題目：The development of a new measure of
English language learners' attitudes towards
English as a global language

第 2 回

日時：2021 年 10 月 9 日（土）16:00-17:20

講師：福田スティーブ利久 先生（文教大学准教
授）

場所：オンライン（Zoom）

題目：The Autonomy-Supportive Classroom: Guiding
Learning using Formative Assessment and ICT
Tools

第 3 回

日時：2021 年 12 月 11 日（土）16:00-17:20

講師：佐野 富士子 先生（元横浜国立大学教授）

場所：オンライン（Zoom）

題目：教育実践に取り入れたい最新の SLA 研究
—ISLA（学びの場における SLA）を中心に
—

(3) JACET 関東支部企画ワークショップの開催

名称：JACET 関東支部企画ワークショップ

場所：オンライン

日時： 2021 年 11 月 6 日（土）14:00-17:00

場所： オンライン

題目： 初めて学ぶベイズ統計入門

講師： 片桐 一彦先生（専修大学教授）

Ⅱ. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の
刊行（2号事業）

(1) 『関東支部紀要』第 9 号の刊行

日程：2022 年 3 月 31 日

発行： デジタルデータ

※関東支部ホームページに掲載

(2) 『関東支部ニューズレター』第 17 号、第 18 号の
刊行

日程：2021 年 9 月 30 日

2022 年 3 月 31 日

※関東支部ホームページに掲載

Ⅲ. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2021 年度 第 1 回、第 2 回関東支部総会

日程： 1) 2021 年 7 月 11 日（オンライン）

2) 2021 年 11 月 6 日（オンライン）

目的： 1) 2020 年度の支部の事業報告、会計
報告、2021 年度の支部の事業計画
2) 2021 年度の支部の事業計画、予算案お
よび人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日程：2021 年 4 月 11 日、5 月 19 日、6 月 8 日、7
月 13 日、8 月 22 日（臨時）、9 月 12 日、
10 月 10 日、11 月 14 日、12 月 12 日、2022
年 1 月 9 日、3 月 13 日

場所：オンライン

目的：関東支部における支部事業、研究会活動、
運営の報告、及び活動報告の立案、協議を
行った。コロナウイルス対策のため、すべ
てオンラインで会議を実施した。

■2022 年度事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催 (1 号事業)

(1) 支部大会の開催

名称:2022 年度関東支部大会

日程:2022 年 7 月 9 日(土)

場所:オンライン

規模:約 150 人

(2) JACET 関東支部企画ワークショップの開催

名称: JACET 関東支部企画ワークショップ

日時: 2022 年 11 月 5 日(土) 14:00-16:00

形態: オンライン (ZOOM)

題目: 今日から始めるベイズ統計

講師: 高橋知也先生 (東京都健康長寿医療センター
一研究所)

(3) 関東支部講演会の開催

名称: 第 1 回 JACET 関東支部講演会

日時: 2022 年 6 月 11 日 16:00 - 17:20

場所: オンライン

題目: 欧州評議会の「複言語・複文化主義」が持つ
現代史的意義 (The Modern Historical
Significance of the Council of Europe's
"Plurilingualism / pluriculturalism)

講師: 山川智子先生 (文教大学文学部教授)

名称: 第 2 回 JACET 関東支部講演会

日時: 10 月 8 日(土) 16:00 - 17:20

題目: 「多様な学生を対象としたリメディアル英
語授業」

講師: 馬場千秋先生 (帝京科学大学教育人間科学
部教授)

名称: 第 3 回 JACET 関東支部講演会

日時: 12 月 10 日(土) 16:00 - 17:20

内容等: 未定

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の 刊行 (2 号事業)

(1) 『JACET 関東支部紀要』第 10 号(英語名:
JACET-KANTO Journal)

日程:2023 年 3 月 31 日

形態:XML データ(ウェブ掲載)

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」

日程:2022 年 9 月 30 日(第 19 号)

2023 年 3 月 31 日(第 20 号)

形態:JACET 関東支部ホームページに PDF で掲載。

III. その他 (5 号事業)

(1) 支部総会の開催

名称: 2022 年度第 1 回、第 2 回関東支部総会
第 1 回

日時: 2022 年 7 月 9 日(土) 12:30-12:50

形態: オンライン

目的: 2021 年度の支部の事業報告、会計報告及
び 2022 年度の支部の事業計画

第 2 回

日時: 2022 年 11 月 5 日(土) 13:00-13:30

形態: オンライン

目的: 2023 年度の支部の事業計画、予算案及び
人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

① 日時: 2022 年 4 月 9 日(土) 14:30~15:30

形態: オンライン会議

議題: 2022 年度支部大会について

② 第 2 回支部運営会議

日時: 2022 年 5 月 14 日(土) 14:30~15:30

形態: オンライン会議

議題: 2022 年度支部大会について

③ 第 3 回支部運営会議

日時: 2022 年 6 月 11 日(土) 14:30~15:30

形態: オンライン会議

議題: 2022 年度支部大会について

④第4回支部運営会議

日時：2022年7月2日（土）14:30～15:30

形態：オンライン会議

議題：支部大会準備

⑤今後の予定

第5回 9月10日（土）14:30～15:30

第6回 10月8日（土）14:30～15:30

第7回 11月5日（土）11:00～12:00

第8回 12月10日（土）14:30～15:30

第9回 2023年1月14日（土）

14:30～15:30

第10回 2023年3月11日（土）

14:30～15:30

形態：オンライン

目的：支部の運営における審議、

計画の立案

支部講演会委員会報告

支部講演会委員長

青木理香（東洋大学）

■2022年度上半期活動報告■

2022年度上半期は、6月11日（土）に第1回支部講演会を行った。講師には山川智子先生（文教大学文学部教授）をお招きし、「欧州評議会の『複言語・複文化主義』が持つ現代史的意義」についてご講演いただいた。63名以上の申し込みがあり、盛況の中で幕を閉じた。

■2022年度下半期活動計画■

2022年度下半期は、10月8日（土）に、馬場千秋先生（帝京科学大学教育人間科学部教授）をお招きし、「多様な学生を対象としたリメディアル英語授業」というタイトルで第2回支部講演会を、また、12月10日（土）には、ベネチア大学（Ca' Foscari）の日本語教育カリキュラムに関して、第3回支部講演会を予定。

JACET 関東支部講演会（第1回）報告

支部講演会委員長

青木理香（東洋大学）

日時：2022年6月11日（土）16:00～17:20

講師：山川 智子 先生（文教大学文学部教授）

場所：オンライン（Zoom）

日本語題目：欧州評議会の「複言語・複文化主義」が持つ現代史的意義

英語題目：The Modern Historical Significance of the Council of Europe's "Plurilingualism / pluriculturalism"

発表概要：「複言語・複文化主義」を提唱する欧州評議会は、人権意識や民主主義的価値観の共有という理念を掲げて活動している。戦争を二度と起こさないという目的で歩み続けてきたヨーロッパ統合の舞台裏で、言語や文化の多様性を守るための地道な活動を続けている。1949年の設立以来、欧州評議会は社会情勢の変化にも対応してきた。

欧州評議会の理念はヨーロッパをこえた地域においても共有されている。なかでも「複言語・複文化主義」という概念は、ことばと文化への向き合い方を考える指針となっている。世界情勢が緊迫化する現在、この概念の理解を深めることで、私たちは他者への接し方や、平和構築に向けた言語文化教育の在り方を改めて考えることができるだろう。本講演では「複言語・複文化主義」が持つ現代史的意義について皆さんと考え、様々な視点からの考えを共有していきたい。

報告：発表では、まず欧州評議会と欧州連合との違い、欧州評議会の歴史、欧州文化憲章や CEFR で言語がどのように社会的文脈に位置付けられているかについてご説明いただいた。その後、先生のドイツ語教育におけるご経験や昨今のウクライナ情勢を交えながら、言語教育の観点から「複言語・複文化主義」について論じていただい

た。例えば、ひとつの出来事に対して文化や言語によって複数の異なる表現があることを理解すること、相手の受けとめ方や考え方をリスペクトし、相手を少しでも知ろうとすることが異文化理解につながるということなどである。身近な異文化理解の積み重ねが国際理解につながるという実感を学習者が持つことができれば、様々なことに当事者意識をもって臨むことができる。このように、「複言語・複文化主義」は、英語に限らず自分が関わるすべての言語および文化への誇り、他者への「思いやり」や異言語や異文化へのリスペクトをもたらす概念であることが示唆された。当日は 63 名の参加申し込みがあり、ロシアによるウクライナ侵攻の授業での扱い方について参加者同士でディスカッションを行った他、Q&A のセッションでもアジアにおける複言語・複文化主義、CLIL との関連などに関して活発な議論がなされた。

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長
鈴木彩子（玉川大学）

紀要編集委員会は 2023 年 3 月の第 10 号の発行に向けて準備を進めています。2020 年度から原稿締め切りが 8 月 31 日になっており、本原稿はその締め切り日の朝に執筆をしています。現時点で 5 本の原稿の提出が確認されており、本日中に後 1・2 本の提出があるものと期待しているところです。第 10 号の募集は例年より 1 か月程遅れての開始となりましたので、それが投稿数に影響するかもしれないと心配しておりましたが、例年通りとなりそうでホッとしているところです。

原稿募集開始が遅くなった理由には、テンプレートを APA 第 6 版から第 7 版に基づいたものへの改定を行ったことがあります。改定は、紀要編集委員会の鈴木健太郎先生（北海道教育大学）を中心に行い、その際、関東支部会員の神村幸蔵先生（筑

波技術大学）、小木曾智子先生（富山大学）に多大なるご協力を頂きました。出来上がりましたテンプレートは、APA の最新版に基づきながらも、会員の皆さまにとって使いやすい、かつ、読者として読みやすいものに仕上がっています。この場を借りまして、改定を行ってくださった先生方に改めて心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、締め切り後には関東支部会員の先生方のご協力を得ながら第一次査読を行っていくこととなります。来年 3 月の発行に向けて年明けまでに全ての審査を終了し、その後、採録論文の編集・校正作業を行う予定となっています。今年度の発行も楽しみにお待ちしております。

最後に、支部会員の皆様に嬉しいお知らせです。J-STAGE への紀要掲載を進めていることを第 9 号での山口高領関東支部長の巻頭言でお伝えしておりましたが、この 9 月 20 日に公開となりました。煩雑な手続き・作業が必要であったため想定よりも時間がかかってしまいましたが、ようやく皆様にアクセスしていただけることとなりました。ぜひこれまで以上に紀要をご活用ください。また、この公開は鈴木健太郎先生の献身的な作業なしでは辿りつくことはできませんでしたので、これに関しても、ここでお知らせさせていただきます。支部会員の皆様には今後も紀要委員会の活動をサポートしていただけるようお願いいたします。

事務局だより

支部事務局幹事
長田恵理（國學院大學）

■JACET 関東支部講演会および支部企画ワークショップのお知らせ■

2022 年度の今後の関東支部講演会及び関東支部企画開催予定は以下の通りです。第 2 回講演会、支部企画ワークショップの申し込みが始まって

おります。詳しくは関東支部ホームページ
(<http://www.jacet-kanto.org/>)もご覧ください。多く
の方のご参加をお待ちしております。

◇2022 年度第 2 回関東支部講演会

日時：10 月 8 日（土）16:00 - 17:20

形態：オンライン（ZOOM）

題目：「多様な学生を対象としたリメディアル英
語授業」

講師：馬場千秋先生（帝京科学大学教育人間科学
部教授）

参加費：無料（定員 100 名）

事前申込制：

<https://forms.gle/7utAdPutBDQMTERG6>

◇JACET 関東支部企画ワークショップ

名称：JACET 関東支部企画ワークショップ

日時：11 月 5 日（土）14:00-16:00

形態：オンライン（ZOOM）

題目：今日から始めるベイズ統計

講師：高橋知也先生（東京都健康長寿医療センタ
ー研究所）

参加費：無料

事前申込制：（10/30 まで）

<https://forms.gle/4JNoeonEyrvFxEf7>

※このワークショップでは、JACET 会員が申し込
んだ場合に限り、録画視聴サービスを提供します。
詳しくは関東支部 web ページを御覧ください。

■追悼文■

このニューズレターが発行される直前に、長き
にわたり関東支部に多大なご貢献をいただい
た山本成代先生の訃報が入りました。山本先生
は、JACET 社員、支部幹事、支部講演会委員会の
委員長としても関東支部を支えてくださいまし
た。暖かなお人柄が偲ばれます。山本先生のこれ
までのご貢献・ご功績に改めて敬意を表すると共
に、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を心よりお祈

り申し上げます。

（関東支部長 山口高領）

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の
際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してく
ださいますよう、どうぞよろしくお願いいたしま
す。

JACET-Kanto Newsletter 第 19 号

発行日：2022 年 9 月 30 日

発行者：JACET 関東支部（支部長 山口高領）

編集者：長田恵理、下山幸成、

佐野富士子、藤尾美佐

発行所：〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川

3-22-1 國學院大學人間開発学部

長田恵理 研究室内